

エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会

札幌市会場

■日時

平成24年7月22日(日)13:00～15:00

■場所

札幌第一合同庁舎講堂

■参加者数

計172名

■当日の様様

※一般参加者のお名前については、英文字に置き換えさせていただきました。

<開会>

◎司会者

ただ今から、「エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会」を始めさせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、ご参加誠にありがとうございます。

本日ですが、286名の参加お申し込みに対しまして、無作為抽選により当選された方が、意見表明者を除き230名、意見表明者12名、合計242名。さらに12時50分時点での実際の来場者数ですが、159名となります。また報道関係者40社、84名となっております。

また意見表明希望者につきましては、ゼロシナリオに対する意見表明希望者が106名、15シナリオに対する意見表明希望者10名、20～25シナリオに対する意見表明希望者13名、参加のみの希望者157名です。この中から、無作為抽選で選ばれましたゼロシナリオに対する意見表明希望者から6名、15シナリオに対する意見表明希望者から3名、20～25シナリオに対する意見表明希望者から3名、合計12名の意見表明者の方から、それぞれ7分程度でご意見を表明していただきます。

このように、今回から意見表明者の方の人数を3名増加させていただいております。今後も頂きましたアンケートを参考とさせていただき、運営、改善を図ってまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

現在、政府は「エネルギー・環境会議」において、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、エネルギー・環境戦略の見直しを行っています。

6月29日の同会議において、2030年のエネルギー・環境に関する3つの選択肢を取りまとめました。今後、本意見聴取会をはじめとした国民的議論を礎として、8月にエネルギー・環境の大きな方向を定める「革新的エネルギー・環境戦略」を決定し、政府として責任ある選択を行います。

それではここで、本日のスケジュールをご案内いたします。

まず初めに、「エネルギー・環境会議」の副議長を務めます枝野経済産業大臣の挨拶の後、政府担当者より「エネルギー・環境の選択肢」に関する3つのシナリオについて、パワーポイントを使いご紹介をさせていただきます。

その後、希望者の中から抽選で選ばれた12名の意見表明者から、お一人さま7分以内をめぐり、ご意見を述べていただきます。

また全員の意見表明の終了後、同じ12名の皆さまから、それぞれ意見内容についてのご意見・ご感想がありましたら、お一人さま2分以内を目安にご表明いただきたいと思います。

ご来場の皆さまのご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

なお意見表明者の番号11番の方ですが、本日急遽欠席となりましたため意見表明を省略させていただきます。

<大臣による冒頭の挨拶>

◎司会者

それでは進めさせていただきます。

まずは開会にあたりまして、枝野経済産業大臣からご挨拶を申し上げます。枝野大臣、よろしくお願いいたします。

◎枝野大臣

経済産業大臣の枝野でございます。

本日は意見聴取会にご参加をいただきました皆さん、そして意見発表をご準備いただいた皆さん、本当にありがとうございます。

「原発への依存度をできる限り減らす」、これが東京電力福島原子力発電所事故の反省を踏まえた政府の基本方針であります。なるべく原発に依存しない社会を実現したい、こういう国民の皆さんの思いを踏まえた上で、政府は具体的な道筋を構築していきたいと考えています。

原発依存をできる限り低減するには、原子力に代わるエネルギーをどうするかも大事な論点であります。政府としては、原発低減を補う主役は風力や太陽光、そして省エネルギーであると考えます。

「原発からグリーンへ」、これが政府としての基本的な考え方です。原発依存度を可能な限り低減していくためには、目標を掲げつつ、足元からしっかりと現実的な対応

をしなければなりません。

今回お示しをした 3 つのシナリオのいずれにおいても、再生可能エネルギーは概ね 30%を目指していきます。これは現在の水力を除けば、電源の 2%である再生可能エネルギーを 20 年間で 13~24%に拡大をするものであり、原発 20 基に相当する太陽光発電や風力発電を造るのに等しいものであります。相当集中的に資本と技術を総動員し、政策も大胆に組み直し、取り組んでいきたいと考えています。

わが国は自前の資源に乏しく、これまでも変動する国際情勢や技術革新の動向に応じて、大きなエネルギー選択の変更を経験してまいりました。高度成長期には石炭から石油にシフトをしました。石油危機に際しては、あらゆる代替エネルギーの開発に努め、世界に誇る省エネ国家を築きあげました。今回は原発からグリーンへのシフトを中核として、変化に柔軟に対応できる強いエネルギー構造を築いていきたいと考えています。

原発からグリーンへという新たなエネルギー構造は、既存の大きな電力会社任せでなく、それぞれのご家庭が需要家として主体的にエネルギーを選び、自ら電気をつくっていく世界に変えていくことが必要であります。ユーザー一人一人に選択の自由と責任が生じます。これまで以上にお一人お一人に、エネルギーの選択をご自身の問題として考えていただきたいと考えております。

今回の選択は、私たちの豊かさや国の在り方を決めるのみならず、将来世代、そして国際社会にも大きな影響を及ぼす選択でもあります。政府からは 3 つの選択肢をお示ししていますが、決してこの中のどれか一つでなければいけないという主旨でお示ししているものではありません。本日の意見聴取会をはじめ、この 3 つの選択肢を軸に、国民の皆さんの多様なご意見を頂きたいと考えています。そうしたさまざまなご意見にしっかりと耳を傾け、より良いエネルギー・ミックスの姿を選択してまいりたいと考えております。

これまで意見聴取会を 3 回開催し、埼玉会場に私が、他の 2 会場に古川大臣と細野大臣が出席をいたしました。意見聴取会の進め方については、さまざまなご意見、ご批判があることは十分承知をいたしております。私たち自身も、国民の皆さまからいかに公平に多様な意見をお伺いし、冷静にご議論をしていただくか悩みながら、工夫そして工夫を凝らしながら進めているところでございます。

今回もこれまでの意見聴取会の意見を踏まえて、意見表明者の人数を増やしたり、同意いただいた方の意見の概要をあらかじめ配布させていただくなどの改善をさせていただいています。引き続き足りない点もあろうかと思いますが、ぜひ皆さまのご意見を頂きたいと思っております。

意見聴取会で意見発表者として意見を表明いただくことは、国民的議論を進めるためのさまざまな方法の一つであります。パブリック・コメントやこの会場でお願いをしているアンケートなど、さまざまな方法を含めて、多様な皆さまのご意見をできるだけ幅広くお寄せをいただきたいと思っております。そうしたことを、全体をしっかりと受け止めた中で、新しいエネルギー選択を行ってまいります。

運営の在り方を含めて、さまざまなご批判はあろうかと思いますが、ぜひ皆さまのご協力、そして意見表明者の皆さまのご協力をお願い申し上げ、ぜひこの会が建設的な会となるようご協力をお願い申し上げ挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

◎司会者

枝野大臣、ありがとうございました。

<「エネルギー・環境の選択肢」の3つのシナリオ説明>

◎司会者

それでは、「エネルギー・環境の選択肢」3つのシナリオについて、高原資源エネルギー庁長官より、ご紹介申し上げます。皆さまは、お手元の資料を合わせてご覧ください。

それでは、高原長官よろしく願います。

◎高原長官

お手元に、「エネルギー・環境に関する選択肢・概要」という資料をお配りいたしております。正面の所にも出ますので、どちらかご覧をいただきながら、私がお説明を申し上げたいと思います。

まず1ページでございます。

震災前、我が国は原子力を基幹電源とするエネルギーの選択を行いました。温暖化問題で世界をリードする、準国産電源であるという認識で、2030年の原発比率を2010年の26%から45%に引き上げるといった選択を行いました。

昨年3月11日の東日本大震災と東電の福島原発の事故を受け、昨年7月に政府のエネルギー・環境会議は、原発依存度を可能な限り減らすという基本理念を決定いたしました。この方向性は共有されつつあると言えますが、どの程度の時間をかけて、どこまで減らすべきか、どのエネルギー源で補うのか、またどこまで国民の皆さま方の生活やあるいは産業活動の構造転換を図るかについては、意見が分かれています。

2ページをご覧ください。

今回政府が提示する新しいエネルギー選択の方向性は、表題にあるとおり「原発からグリーンへ」となります。図にあるように原発依存度を低減し、輸入に頼らざるを得ない化石燃料を減らすとすれば、これからの軸は省エネと再エネとなります。どのようなエネルギー選択を行うにしても、クリーンエネルギーへの転換で成長を加速し、需要者の方々がエネルギーを主体的に選択できるエネルギーシステムに変え、こうした改革を国際貢献につなげていきます。

「原発からグリーンへ」という大きな方向性の下、第1に原子力の安全確保と将来リス

クの低減、第 2 にエネルギー安全保障の強化、第 3 に温暖化問題解決への貢献、そして第 4 にコストの抑制、空洞化防止の 4 つの視点から、どこまで原発の依存度を下げていくべきか、どこまで再エネや省エネを拡大するべきか、あるいはできるのか、どの程度のスピード感で原発からグリーンへの構造改革を行うことが現実的なのか、あるいはできるのか、が論点です。

今回 2030 年に向け、原発低減の度合いや、再エネ、省エネの拡大の度合い、スピードが異なる、ゼロ、15、20～25 の 3 つのシナリオを用意いたしました。この点を示したのがこの図です。電源構成は火力と再エネ、原子力からなります。2010 年は火力が主体であり、現行のエネルギー基本計画の 2030 年の姿は原子力が主体という考え方でした。それと比較して今回提示しているシナリオは、いずれも原発依存度を低減し、再エネを伸ばすということ、その程度が違うということがお分かりになっていただけたと思います。

まず、3 つのシナリオの基本となる原発依存度低減の考え方についてです。どのシナリオについても、第 1 に、徹底した安全対策の強化によってリスクを最小化し、第 2 に、使用済核燃料や放射性廃棄物の発生を抑制し、将来世代への負担を減少させ、第 3 に、安全を支える技術や人材を確保、開発します。

その上でゼロシナリオは、2030 年までのなるべく早期に原発比率をゼロといたします。核燃料サイクル政策は、直接処分といたします。

また 15 シナリオは、2030 年に 15%とします。これは 40 年運転制限制度を自然体で運用した場合の数字にほぼ相当し、原発の新増設が難しい状況にあるという実情を踏まえています。核燃料サイクル政策は、再処理も直接処分もあり得ます。

20～25 シナリオは、原発も一定程度維持し、2030 年の原発比率を 20～25%程度とします。原子力発電の新設、更新が必要となります。核燃料サイクル政策は、再処理も直接処分もあり得ます。

30 年以降の姿がどうなるかについて、皆さま方の関心も高いと思われます。どのシナリオについても国際的なエネルギー情勢、地球環境を巡る情勢、技術革新の動向、原子力に対する国民の皆さま方の信認の動向を把握し、不断に検証し、2030 年めどには大きな方向性に関する検証を行います。

「ゼロシナリオ」は、2030 年までのなるべく早期に原発比率をゼロにするシナリオです。この場合、省エネ性能の劣る製品の販売制限や禁止を含む厳しい規制を広範に課し、経済負担が重くなっても相当高水準の再エネ、省エネなどを行います。再エネは 35%とします。これにより、CO₂ も化石燃料輸入額も、他のシナリオと遜色のないレベルまで低くなります。この場合、一方でコストや経済への影響は、他のシナリオよりも大きい傾向となります。

次に「15 シナリオ」ですけれども、原発依存度を着実に下げるシナリオです。2030 年の原発比率を 15%程度とします。再エネ、省エネについては着実に実施することで、再エネは 30%とします。CO₂ の排出量や化石燃料の輸入額はゼロシナリオと同程度です

が、コストや経済への影響については、ゼロシナリオに比べ小さい傾向となります。このシナリオは、2030年までの間、原子力、再エネ、化石燃料を組み合わせることで使うことになるため、エネルギー情勢や再エネなどの技術革新の変化など、様々な環境の変化に対し柔軟に対応することを目指す内容となります。

「20～25シナリオ」は、緩やかに原発依存度を低減しながら一定程度を維持するシナリオであり、原発への新規投資、更新を行うシナリオとなります。2030年の原発比率を20～25%程度とします。再エネ、省エネは着実に実施し、数字で言えば再エネを30～25%とします。化石燃料依存度とCO2排出量の削減をより経済的に進めます。ただしこのシナリオでは、原発の新設あるいは更新が必要となるため、原子力および原子力行政に対する国民の皆さま方の強固な信認が前提となります。

次に、原発依存度低減を支えるグリーンシフトの具体像について整理しました。

まず、現状と15シナリオや20～25シナリオの世界を比較します。「原発からグリーンへ」という共通方針のもと、15シナリオや20～25シナリオであっても、再エネは30%としています。これは、発電電力量で言えば現在原発1基分相当であるところを20基分相当とすることになります。太陽光発電で言えば、現状90万戸から現在設置可能なほぼ全ての住戸の屋根に導入し、すなわち1000万戸の住宅に太陽光パネルを載せなければなりません。ゼロシナリオの場合は再エネ35%となりますので、太陽光発電で言えば、強度の観点から現在設置が不可能な住戸に対しても、改築や補強をしながら導入することが必要となります。風力発電で言えば、立地困難な地域や洋上へのさらなる進出が必要となります。

省エネについては、現状と15シナリオ、20～25シナリオの世界を比較すると、設備や機器の入れ替えの際に最新鋭の機器を導入することにより省エネを行います。さらにゼロシナリオでは、規制により効率の劣る既存の機器や設備、あるいは住宅までを入れ替える対応まで必要となります。

ここでもう一度、各シナリオの電源構成の比較に戻ります。

2030年までにどこまで原発比率を下げ、どの程度のコストをかけて、どこまで再エネや省エネを拡大するのかを皆さま方に問いかけさせていただきたいと思っています。原発を大きく減らせば、グリーンへのシフトをより早く、より大きくしなければなりません。グリーンへのシフトは誰もが望ましいと考えられると思いますけれども、「言うは易し」で、大きく変えようと思えば時間もコストもかかります。

一方、原発を減らす度合いを小さく、またスピードを遅くする場合には、大前提として国民の原子力に対する強固な信認がなければなりません。

いずれのシナリオでも、再エネあるいは省エネのウェイトが大きくなるため、グリーンの開発が思ったほど実現できなければ、海外からの輸入に頼り、地球の温暖化につながる化石燃料に依存しなければならなくなります。富の海外流出やコストアップにつながり、国民の皆さま方の生活や産業活動に大きな影響が出ます。

「原発からグリーンへ」という共通の方針の下、3つのシナリオを用意いたしましたけれども、原発低減の度合い、再エネ、省エネの拡大の度合いやスピードについて、どこまで行くのかをよく見比べていただきたいと思います。

エネルギー・環境会議は、この3つのシナリオを基に、国民の皆さま方の中での対話が進むよう、さまざまな手法をもって国民的な議論を展開しています。この国民的議論につきましては、この意見聴取会を全国11カ所で8月4日まで行わせていただきます。討論型の世論調査という新しい試みを8月4日と5日に行います。パブリック・コメントは8月12日まで行わせていただき、皆さま方のご意見を広く頂きます。

その上で、8月に「革新的エネルギー・環境戦略」を決定いたします。そこではエネルギー・環境の大きな方向性を定め、エネルギー・ミックスの大枠と、2020年、2030年の温室効果ガスの国内排出量などを示します。

その後も不断の検証を行うとともに、2030年をめどに、どのシナリオを選択しても大きな方向性に関する検証を行います。すなわち、国民的な議論は大きな方針が決まった後も続きます。

本資料中のデータの計算根拠や、あるいは元となった経済影響分析の性格などにつきましては、国家戦略室のホームページの中にあります特設サイト「話そう“エネルギーと環境のみらい”」をご覧くださいいただけます。

以上で説明を終わらせていただきます。ご清聴、誠にありがとうございました。

◎司会者

ただ今、3つのシナリオについてご紹介を申し上げます。

<意見表明(一般参加者より)>

◎司会者

続きまして、意見表明者の皆さまからご意見を頂きたいと思います。

本日は意見表明を希望された方の中から、各シナリオごとに希望者の中から抽選で選ばれた、ゼロシナリオに対する意見表明者が6名、15シナリオに対する意見表明者3名、20～25シナリオに対する意見表明者3名の合計12名の方に、意見表明をお願いいたします。

順番は、お名前の五十音順とさせていただきます。

時間の関係上、お一人さま7分以内をめどに意見表明をお願いいたします。

また意見表明の概要についてですが、配布にご同意いただいた方につきましては、お手元の配布資料、各シナリオに対する意見表明者のコメントに記載をさせていただきます。

先ほどご案内のとおり、意見表明者で15シナリオを選択されました11番の方ですが、本日急遽欠席となり繰り上げはございません。本日は11名の方にご意見を頂きます。

なお意見表明時間のご参考として、係の者が残り時間を表示させていただきますので、参考にいただければと思います。

それでは意見表明番号 1 番の方ですが、お手元のマイクがご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、またご職業など、差し支えのない程度で結構でございますのでお話しいただきました上で、意見表明をお願いいたします。

なお 1 番の方は、20～25 シナリオについての意見表明と伺っております。それでは 1 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 1

ちょっと名前は控えさせていただきます。いろいろちょっと支障があるものですから。60 歳で自営業を営んでおります。

先ほどかなりやじの方がおられたんでちょっと補足しておきますけども、今自営業ですけども、2 年ほど前まである建設会社で技術屋をやっておりました。その点を踏まえまして、純粋に技術屋としての視点から、今回のこの会に出席して意見を表明していきたいと思っておりますので、そういうことで聞いてください。

基本的に私、ここにも書いたんですけど、原子力発電がゼロで国民の生活、産業が維持できればベストだと私も思ってます。ただし今の日本の技術と、一番問題になるのが私もそういう建設業で技術をやってきまして分かるんですけども、いろんな研究者とかが開発した技術を商業ベースに乗せるといいますか、安定して供給するというのには 10 年単位の時間が必要になります。

そういうことで私が言いたいのは、とにかく国としていろんな研究者を使って、早くこれに変わる技術を開発してもらいたいと。ただし、それができるまではやはり既存の技術がある程度活用していかないと。

はっきり言って、今の、例えば工業の製造ですとか病院、それと北海道でいくと酪農家がそうなんですけども、ほとんどが、電気が安定供給になったものですから電気を使った機械を使って皆さん仕事されてると。

ということで電気が止まるという、私ら子どものときはしょっちゅう停電はありました。電気は止まるもんだと思ってました。ただそのときも大した電気製品は使ってませんから、止まったって何にも影響ないですよ。洗濯機なんていうのはただ回って、絞るのは全部手で回してましたから。脱水機なんてありませんから。別に止まったって洗濯板で洗えば済むような時代に生きてますんで、そういう生活をすれと言われればできないことはないんですが、さっき言ったように、やっぱり産業なりそういうところで電気を使うためには、最低でも 20～30% ぐらいの安定した電源、これが必要になると思うんです。

実は今朝の新聞で、枝野大臣がきのう宇都宮でおしゃべりになったことは、私の言いたいことを言われちゃったなと思ったんですけども、さっき言ったように無いほうがいいんですけども、取りあえずまず安定的に 20～30% を産業なり、医療施設なりにできる技術

を早く開発してくださいと。

私もたまたま、これは縁なんですけども、日本全国あちこちで火力発電所等を建設工事携わってきましたので、ある程度電力とはどういうものか知ってるんですけども。北海道でいくと水力とかあるんですけども、北海道の場合は、冬の場合はどうしても水が凍っちゃいますので出力が落ちるんですよ。そしてどうしても変動が大きくなりますから、どうしても安定した発電設備が当然供給者としては欲しいはずなんです。それを先ほど大臣はグリーンエネルギーへ移行と言ったんですけども、今のグリーンエネルギーというのはそういう意味では、われわれ技術屋の目から見ると変動って大きいはずなんです。今後これがいろんな研究が成果を上げて開発されて良くなれば、それをどんどん使うべきでしょうけど、それにはたぶん 10 年単位の時間が必要になってきます。

今回も「2030 年をめど」と書いてあるんですけども、じゃあ、あと 18 年で今のこの状況でできるんですかというのは、技術屋としてははっきり言って実感なんです。それで今回もこの会があるということで、一番たぶん競争率が低いだろうなというこれを選んで来ました。ですから、別に否定も何もしません。やっぱり安定的な電源を早く確保してくださいと。

それともう一つは、もうわれわれは原子力というパンドラの箱を開けてしまったわけです。それが今止まっていますけども、あの止まっている中にある燃料というのは、いずれ全部処理しなきゃいけないわけです。その技術というのは、まだできてないんです。先日も福島のやつやってきましたけど、あれ見ると、あと 300 年ぐらいかかるんじゃないのと思って私は見てたんですけども。

はっきり言いまして、ここにお並びの大臣の前で申し訳ないですけども、いろんな数字が 3 月 11 日以降、政府なり出てきてますけど、私ら技術屋はほとんど信頼してませんので。ただ一つの目安だろうと。福島事故に関して、あれほど大きくなるとは、私ははっきり言って思わなかったです、12 日の朝の時点では。まあ、ちょっと出るかもしれないけどなと思ったけど、あれがちょっと古いタイプの建物だったもんですから、それでちょっと脆かったんで。

例えば皆さん、原子力というと全部十把一絡げになってるんですけども、方式が二つありますし、これもここにお並びのマスコミの方にも言いたいんですけど、一切出てこないですね、仕組みの違いでどうこうと。全て原子力は悪だと。気持ちは分かります、ああいう事故が起きてますから。だけどその中で、なんでもそうですけど技術にとってリスクゼロというのはあり得ません。新幹線だってリスクはあります、事故は起きてませんけど。

そういうことで技術屋というのは何をするかと言うと、そのリスクを最小限にするようなことをやっていく、これがわれわれ技術屋の務めでして。確かに起こらないにこしたことはないんですけども、起こったときにどう処理するかと。それをやるには、やっぱり日本の技術屋というのは、いろんな分野がありますけども世界の中でもかなり優秀です。

ですから気持ち的には非常に私も理解できるんですけど、感情的にならず、もうちょっと

と前向きに、トータルのそういう経済とか、生活で我慢するのはいいと思うんですよ。経済なり、病院とか、そういうとこに支障が出ないように、もうちょっと。なんか短絡的なポイントでもって議論されていると感じるもんですから、僕は出させてもらったんで。そういうことで、もうちょっとトータルにやって、要するに 100%安全、危険度ゼロなんてことはあり得ませんので、その危険度をいかにちっちゃくするか、そういう議論をもうちょっと進めていっていただければと思っています。

ちょっと時間が足りないですけど、以上です。

◎司会者

1 番の方、どうもありがとうございました。

それでは次に 2 番の方でございます。同様にお手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業などを差し支えない程度で結構でございますのでお話しください。

2 番の方は、ゼロシナリオについての意見表明と伺っております。お願いいたします。

◎意見表明者 2

こんにちは。群馬県出身、札幌在住 2 年半、とび職、ラッパー、A です。27 歳。よろしく申し上げます。

きょうは 2030 年までに、2030 年までと言わずになるべく早急に、原子力発電ゼロというシナリオで意見を表明しにやってきました。

まず 5 月 6 日から 6 月 30 日まで原子力発電所が全部止まって、今原子力発電所に依存しない電気で私たちは生活してますけれども、この時期、原子力発電所がなくても電気は安定供給されるということは本当に、実際に証明されたと思うんですね。

主に北海道についての話になりますけれども、今計画停電が計画されていて、実行に移すかどうかは別としてその準備がされていて、日々北電のホームページのほうに使用電力量と供給量を表示されてますけれども、実際のところの数字というのは内部の方しかやっぱり分からないと思いますので、仮にですけれども偽りのデータを提示して計画停電に突入したとして、それを知る由は私たちはないです。

それに代わる具体的な提案としまして、今使用している電力という、今の時点で大体 400 万キロワットぐらいですか。そこから安定供給量と言われている 60 万キロワットほど、今のこの時点から 60 万キロワットほど落とすと、泊の 1 号機 50 万キロワット、2 号機 50 万キロワット、3 号機 91.4 万キロワット、それぐらいに相当するのを今の時点から落とすことができれば、世間的にも原子力発電所がなくてもやっていけるということが納得されると思うんですね。

それで具体的な提案としまして、原子力発電所に替わる代替エネルギーとして、太陽光発電を、風力発電でも構わないんですが再生可能エネルギーを取り入れていくことを

提案します。

例なんですけれども、私が脱原発デモで知り合った方の中に、6月の28日から北海道電力と契約している電気のブレーカーを落として、太陽光発電100%で生活を楽しんでいる方がいます。その方は100ワットの太陽光発電パネル1枚と、70ワットの太陽光発電パネル1枚、合計170ワット、それと発電した電力をためるディープサイクルバッテリー二つ、それと電力を充電するためのチャージコントローラー、それと電力を直流から交流に変える正弦波インバーター、大体部品のパーツの原価で8万円程度、友人価格とすることで手数料込みで11万8千円程度の自家発電太陽光発電システムを自宅に取り入れて、それは西側の辺りで太陽光パネルを設置しているらしいんですけれども。それでパソコン使って、携帯の充電器も使って、洗濯機、750ワットのオーブントースター、750ワットの掃除機、あと照明を使って不自由なく生活しているということで。ただその方の場合、テレビと冷蔵庫は所有していないということなので、一般の家庭とは若干事情は異なるんですけれども。

そこまで、電気のブレーカーを落とすまで徹底はせずとも、各家庭が、一人一人が、そういう自家発電システムを家庭に設置していくことによって、原子力発電に依存しない。北海道の人口が550万人ほどだと思うんですけれども、550万人の一人一人が100ワット節電すれば50万キロワットの節電になるんですね。それは泊の1号機の発電電力量に匹敵するので。

節電だけではなく、やっぱり冬場はどうしても電力が必要になってくるので、ただばかみたくに節電をして、極端な節電をして、まるで修行のような生活をするのではなく、節電プラス自家発電を取り入れていくことによって、原子力発電に依存しない生活ができると考えます。それは電力会社とは全く関わりなく、各家庭で電力会社の送電網とかと連結するわけではなく、独立型の太陽光発電ということで、それを設置してゆき、最終的には自家発電をして足りない分を電力会社から買うという、私たち自身の新しいライフスタイルに移行していくことが、今問われているんじゃないかと思います。

今2030年までに政府が、行政が、地方自治体が、電力会社が、原子力発電所をどうするかではなく、私たちの一人一人が、個人個人が、各家庭が、俺が、あなたが、原子力発電所に自分自身の暮らしを何%依存するか、いつまでに何%の依存かを決めるということが今問われてると思ってます。

5月5日に俺たちは一度原子力発電を止めました。そして北海道電力の川合克彦社長は、11月までに泊の1号機、2号機を再稼働させたいと言ってますよね。私は11月までに自分の家に太陽光発電、自家発電のシステムを導入して、少しでも原発依存度、自分自身の原発依存度をまず引き下げていこうと思います。それを政府のほうに協力していただければ、電力会社のほうに協力していただければ一緒にやっていきたいと思ったり、そこにのってくれないのであれば、勝手に民間で、独立型太陽光発電を広めていきます。

以上のことから、私は泊原発再稼働に反対します。そして、俺のまぶだちの実家がある福井県大飯原発の運転停止を求めます。未来は俺らの手の中。ご清聴ありがとうございました。

◎司会者

2 番の方、どうもありがとうございました。

続きまして 3 番の方となります。同じようにお手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業など、差し支えのない程度で結構ですのでお話しください。

3 番の方は、ゼロシナリオについての意見表明と伺っております。またお座りのままでも結構でございますので。それでは 3 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 3

皆さん、こんにちは。B と申します。札幌市の南区に住んでおります。78 歳の年金生活者でございますが、元機械技術エンジニアでございます。電力会社さんとは関係ないんでございまして、以下にゼロシナリオの意見を述べさせていただきます。

日本が今後絶対に福島のような事故を起こしてならないということだけは、皆さん確かだと思えますよ。原発が絶対に安全であると言うことはできないと、電力会社さんもお認めになりました。原発を稼働させれば、福島と同じような事故を起こす可能性があり得るのです。

再発防止のための一番確実な方法は、原発を使わないこと。すなわち廃炉なんです。今回の聴取会で 3 つの選択肢の一つを選ぶというかたちが取られているんでございますけれども、この本質は核エネルギーとの共存を容認するのか、否定するのかという二つの二者択一だと思っております。

私は核エネルギーとの共存というのは不可能だと考えておりますので、2030 年まで待つことなく、直ちにゼロにすると。すなわち全原発即廃炉とすることを主張しております。この二者択一は、生命を慈しみ、安全、安心な暮らしを大事にするのか、それとも命と安全の問題を無視して経済優先に重点を置くのか、という二者択一でもあるんだと理解しております。

核エネルギーを人間がコントロールできるなど考えるのは、科学技術を過信した傲慢極まりない思い上がりだと言うべきです。他のエネルギーとは全く異なりまして、本質的には原爆と同じ原理の危険極まりないエネルギーなんです。危険度のレベルが段違いなんですよ。

そしてまた、日本の国土は 4 枚の地殻プレートが押し合いへし合いしている珍しい地域であり、世界に冠たる地震大国であることはご承知のとおりです。このところ地球の地殻は活動期に入っております、日本ばかりでなく世界各地で地震が頻発していることはご

承知のとおりですが、こんな地震大国に原発を造ったことは重大な過ちであったというべきです。

過ちを改めるにはばかりなことなかれ。直ちに、ためらうことなく、即廃炉を採択すべきです。原発が稼働したら事故を起こすんじゃないかと戦々恐々として、おびえながら暮らさなければならなくなります。安心、安全に暮らすためには、原発は要らないんですよ。

そもそも、昨年 3 月 11 日の東電福島第一原発の破局的な事故を体験した人間が、原発との共存を認めるわけがないんですよ。今回共存を容認するシナリオがどうして出てくるのか、理解に苦しんでおります。福島県の人々の故郷を奪い、生活を一変させ、田畑を、野山を、海を、大気を汚染してしまった原発事故のひどさを、他人事のことと考えているやからの発想だとしか私には思われたいんです。

世界中の大気に放射性物質をまき散らし、世界の海を汚してしまった日本の責任は重大です。絶対に、二度と事故を繰り返してはならないんです。大飯原発の再稼働をくり押しした原子力村の連中は、ことの重大さを本当に分かっているのか、大いに疑問です。

原発は CO2 を増やさないから、地球環境温暖化防止のための手段として有効だと、原子力村は喧伝してまいりましたが、これは IPCC の結論を意図的に歪曲したものと理解しております。IPCC の結論では、地球温暖化をもたらしたものは人間の諸活動であると書いてあります。CO2 の増加が原因だとは書いてないんですよ。CO2 は要因の一つかもしれませんが、原発が発電している現場では確かに CO2 を出さないんですけれども、採掘から選鉱、輸送、精錬、加工そして核廃棄物処理などの各過程では、CO2 を発生しているばかりではなく、海水を加熱することによって地球温暖化を大いに促進し、さらには海水の温度を上げることによって、海水の中に溶けている CO2 を放出させてるんですよ。その他にも自然現象に基づいて温度上昇分もありますので、必ずしも CO2 ばかりじゃねえんだよということでございます。

私たちが使う電気のために他人様に迷惑をかけている、という事実があります。ウラン鉱石の採掘場では、アボリジニの聖地に放射性残土の山を築いてます。選鉱、精錬、加工の各過程でも作業に当たる人々を被ばくさせ、放射性残さいを出し、劣化ウランを残し、原発においても保守、点検、検査にあたる作業員の方に被ばくを強要しているんです。そのような犠牲を他者に、他の人に強いなければならない原発の存在は、倫理的にみて許されないものです。直ちに止めなければならないのです。

さらに核廃棄物は、後世の人々への負の遺産として残すことになるんです。長年にわたる研究をもってしても、核廃棄物を無害な物質に変える技術はとうとう発見されていません。

もう時間のようにございますが、私は一応経験上、原子力プラントが完全なものだとは思っておりません。人間がやることには必ずヒューマンエラーがあります。それによって起こしたのが今回の事故だと考えております。

時間がございませんのでこのへんで、まだ申し上げたいこともあります、このへんで終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎司会者

3 番の方、どうもありがとうございました。

続きまして 4 番の方です。お手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業など、差し支えない程度でご結構でございます、お願いいたします。

4 番の方ですが、ゼロシナリオについての意見表明と伺っております。よろしくお願いたします。

◎意見表明者 4

私は宗谷管内で教職員をやってます C と言います。私はゼロシナリオの立場で意見を述べたいと思います。

私は特に事故後の国と電力会社の 2 月時点での 8 万 7 千人の避難者への対応に見られる、社会的な倫理を壊すような不合理のまん延に特に怒りを感じております。

結論から言うと、原発が絶対的に安全で高い経済効果を生むのであるならば使うべきでしょう。ただ前提として、事故における責任所在が定義されず、事故につながる蓋然性が払拭されない現状で、経済効果優先の立場から原発再稼働を行うべきではなく、原発を維持、推進すべきではないと考えています。15%シナリオ、20～25%シナリオ共に、この前提が満たされない限り選択肢にはなり得ない、というのが私の意見です。

前提が満たされない限り選択肢にならないのであれば、比較的短期間に、速やかにゼロシナリオを達成すべきです。原発がいかに安価で経済にとって効率的であろうとも、また電力会社が債務超過を避けるために続けざるを得ないものであろうとも、この前提が満たされないまま原発という発電方法を取ることは不合理でしかないと思います。

このような前提が満たされないままに、近状で原発を維持、推進することは言い換えるならば、福島第一レベルの事故が今後数十年以内にまたどこかで起こってしまったとしても、日本経済の発展のためには耐え忍んで受け入れるべきであると黙認しているに等しいのではないのでしょうか。

再生可能エネルギーの効率に対する疑問や、化石燃料の供給不安、電力不足への懸念、低線量被ばくの影響など、いろんな見解があるでしょう。しかしこのような見解は結局のところ、経済成長を前提、経済効率優先の立場から原発を維持、推進すべきという結論ありきで、さまざまな根拠の中から自分の立場にとって適した根拠のみを恣意的に引用して、自分たちの前提に沿った持論を進めようとしているようにしか見えません。

シナリオについてですが、どのシナリオも正直なところ、そこに至るプロセスがよく見えないので何とも言えないんですが、15%シナリオ、20～25%シナリオ共に、これはたぶん

事故が起こらないことを前提として、経済影響を試算しているのではないのでしょうか。そこには大きな疑問を感じます。事故の発生確率は、昨年 10 月の発電コスト計算の際に 500 年に一度という数字が出されています。500 年に一度というのは長いようで、国内に 54 基ある原発の数を数えるならば、この事故の発生確率は人間の一生の範囲内で起こり得るもの、現実的な数字として捉えるしかないのではないのでしょうか。

もちろん将来的なエネルギーと環境の選択肢を、さまざまな技術革新の可能性も含めながら検討していくという枠組みそのものには同意します。しかし、その中で原発は責任所在が定義されず、事故につながる蓋然性の払拭が行われず、そういった前提を満たすことができない発電方法なので、議論の俎上にも載せられない、選択肢になり得ないものであると言わざるを得ません。

今後はさまざまな立場の見解を基に、この会議、この「革新的エネルギー・環境戦略」の決定において、最終的に最も中間的なシナリオ、恐らく 15%シナリオが採用されるのだろうと思います。しかしこのような聴取会を重ねることによって、中立性や客観性を担保したと見せかける、そのプロセスそのものが、私には空論めいたものに見えます。

この聴取会とは別個に進められている原発再稼働のプロセスにおいては、安全規制の手続きも、具体的な安全対策も、現状では破綻しています。近い将来においてこれを解消できるのならばまだしも、その見通しは現段階でもまだ不透明です。このような段階で、現在のこの不透明な問題を脇に置いて、2030 年という将来のことを語ろうとするのは、片手落ちの空論にしか見えません。

現在の産業構造や経済効率を維持するために、事故の発生確率を軽視し、今後も原発を維持、推進しようとする事、それは結局のところ、企業の経済効果を優先させるには周囲の社会は外部不経済やリスクを甘受せよ、科学的なリスクはゼロではないが多少のことには目をつぶれというような、無責任な価値観によって成り立っています。このような価値観は、過去の歴史的な公害を引き起こした企業の価値観とどこが違うのでしょうか。私には本質的に通底するものに見えます。このような価値観は社会的な倫理を壊すものであり、反社会的なものであると言えます。

以上、結論を繰り返しますが、前提として責任の所在が定義されず、事故が起こる蓋然性が払拭されない現状で、原発の再稼働、維持、推進を行うべきではない。15%シナリオ、20～25%シナリオ共に、この前提が満たされない限り、選択肢にはなれないというのが私の意見です。

最後にちょっと付け加えさせてもらいます。私は宗谷管内から来ましたが、宗谷管内には幌延という町があります。幌延には深地層研究センターというのがあって、放射性核廃棄物の最終処理の候補地として挙げられて、今は協定でそれがストップして、その代わりに研究が進んでいるという土地です。北海道在住者にとっての 15%シナリオ、20～25%シナリオというのは、こういった放射性廃棄物の増加という問題にも直結した問題であるということをつけ加えておきたいと思います。以上です。

◎司会者

4 番の方、ありがとうございました。

続きまして 5 番の方、先ほどと同じようにお手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業など、差し支えない程度で結構でございますのでお話しください。

5 番の方ですが、ゼロシナリオについての意見表明と伺っております。5 番の方、どうぞよろしくお願いいたします。

◎意見表明者5

札幌南区のDと申します。私は現在 61 で、大学は化学専攻で、主に無機化学のほうをやってきました。その関係で放射性物質というものがどういうものかということは、結構専門的に理解しているつもりです。

その後市役所に勤めて、たまたま公害関係の仕事をやってたんですけど、そのときにいろいろ立ち入った工場の中にたまたま北電の工場がありました。火力発電所で。そういう関係で、実はボイラーもなぜか少しは理解してます。いかに貧弱なものか、よく分かってます。現実に見たことがありますので。要は、原発というのは火力の代わりに原子力を使うわけですけども、最後はタービンを回して発電するということは全く同じなんですね。つまり原発をいくら頑丈に造ったとしても、タービンおよび熱交換器がいかに貧弱なものかということは実際に見たらすぐ分かると思います。それは余談としまして。

実は、私この意見表明ということに対してものすごく軽く考えて、単にフォーマットに沿って応募したらたまたま当たって、慌てて、この中身は何ぞやということで中身を見たら、一応私はゼロシナリオということで申し込んだんですけども、見てあきれました、はっきり言って。ゼロシナリオというのは 2030 年までにやると書いてますけども、実はその後がありまして、30 年以降も検証するって書いてるんですね。だから全然保証してないです、30 年後にどうなるかということ。これを見て私もうあきれちゃって、引っくり返しそうになりました。

基本的に私はそういう関係で、原子力について、ある程度はずっと分かってたつもりで注視してたんですけども、日本がなぜこんなにも、福島事故以降にも原発に固執しようとしているかというのは、たぶん簡単な理由だと思います。原発を持ちたいからです。原爆を保有する、つまりプルトニウムを手放したくないからだだと思います。たぶんそれをものすごく強く思ってるから、ああだこうだ、経済的な理屈だとか、地球温暖化だとか理由を付けてたぶんいたいんだと思います。本質はこれだと、私は考えてます。

私はずっと原子力は危険だということを理解して注視してまして、この核兵器の保有のためのプルトニウムが日本には存在するということも分かってました。でもまさか、水爆の原料であるトリチウムを保有しているとは、仰天でした。つい最近、つい最近というか、こ

の福島事故以後にいろいろ調べてみて分かったことなんですけども、要するにふげんというのは基本的には重水炉なんです。重水炉というのは実は、重水の中性子とぶつけてトリチウムにするわけですね。それが効率的につくるシステムなんです。だからアメリカでも核兵器を作るときに、それを作っていました。でも結局そのトリチウムが環境にばらまかれるということで、しかも重水を維持するというのがものすごいコストがかかるってことでアメリカは止めちゃいました、1970 何年に。それでもトリチウムというのは半減期が 12 年しかないですから、水爆を維持するためには新鮮なトリチウムが必要なんです。それをどうやってアメリカは調達してるかという、隣のカナダで重水炉をたくさんやっていますから、そこから買ってるんです。

日本もふげんが確か 2000 年の頃ですか、廃炉になってから、それじゃどうやってそのトリチウムを作ろうかなと、いや維持しようかなということで、実は大間原発を造ろうとしてるんです。大間原発は重水炉なんです。いろいろ理屈を付けて、あれはプルトニウムを燃やすための炉だとか言ってますけれども、実はなんのことはないトリチウムを作るための炉なんです。その出来上がったトリチウムが、通常原発よりもはるかに濃度が高いトリチウムが環境に放出されますので、たぶん大間原発が完成したら、道南の漁業は崩壊するでしょう、たぶん。

そういう意味で、私は原発はずっと昔から反対してきました。今回こういう事故が起こって、なおさらその思いを強くしました。政府はこのゼロシナリオ、一応かぎ括弧付きですね、ゼロシナリオなんかやっていますけど、結局核兵器を保有するために維持したいんだと。でもそのために、もし仮に今後 2030 年までにもう一度大きな事故が起こったら、こんな議論なんてやってられません。日本は崩壊します。

だから私はあえてこう言いたい。万が一を考えて、枝野さん、止めましょう、即刻。以上です。

◎司会者

5 番の方、どうもありがとうございました。

次は 6 番の方です。お手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業など、差し支えない程度でお願いいたします。

6 番の方ですが、15 シナリオについての意見表明と伺っております。よろしくお願いたします。

◎意見表明者 6

長野県から来ました E と申します。私は従業員 44 名で精密機械製造の仕事をしております。きょうは長野県では意見聴取会はありませんので、ここまで出向いて意見を述べさせていただきたいと思ってまいりました。東日本大震災と福島原発事故……

(参加者からの声)

◎司会者

大変恐れ入りますが、意見表明中ですのでご静粛にお願いいたします。

◎意見表明者 6

続けさせていただきます。東日本大震災と福島原発の事故の現実は大きな痛みと恐怖を残しました。

(参加者からの声)

◎意見表明者 6

私はやらせではありませんので。

◎事務局

すみません、参加いただいている方のご迷惑になりますので、少々お静かに、よろしくお祈いします。お静かにしていただかない場合には、ご退室いただくことがございますので。

(参加者からの声)

◎事務局

お静かにお願いいたします。

◎枝野大臣

全国の国民の皆さんに意見を伺いたい。ただ、残念ながら全ての国民の皆さんにお話を直接伺うことはできません。そうしたことの中で、いわゆるそれぞれの中心都市で会場を設定させていただきましたが、募集の時点から、例えば札幌での会は北海道の皆さんのご意見を伺うということでのお願いをしております。

それぞれ全国の皆さん、それぞれどこについても応募ができると。それぞれもちろん一番近いところに希望される方が一番多いだろうと思いますが、ただ福島において開催するのはそれぞれの地域の中心都市以外のところで、この事故の当時県であるということで、福島の県民の皆さんの声を聞かせていただくということで設定させていただきましたが、それぞれ応募の際も住所その他等について記入をしていただくというかたちになっていないはずだと思っております。そうしたことの中で、それぞれのご判断で応募された方を無作為で抽出で選ばせていただきました。

(参加者からの声)

◎枝野大臣

それは失礼しました。しかし、そういった趣旨でやらせていただいております。そうしたことの中で、一般の方が応募をされて発言をされているのを妨害するようなことは、それは他の方にも迷惑でありますし、ルールとマナー違反だと思っておりますのでご遠慮ください。

◎意見表明者 6

私は富山とそれから大阪と、大阪は残念ながら落ちまして、それから広島ですね、それから札幌と応募いたしました。私も国民の一人ですので、意見は、考えていることは述べさせていただきたいと思ひまして。

じゃあ、進めさせていただきます。私の妻のおなかの中にもいま赤ちゃんがおります。これから生まれる子どもの未来のために、国の未来のために発言しておきたいと考えました。また中小企業の事業主、地域産業人としての立場からも、わが国のエネルギー政策について思うところを述べさせていただきたいと思ひやってみました。

私は 15%シナリオを指示する立場でございます。その理由は 2 つございます。一つはベストミックスの考え方であり、全てのエネルギーにはメリットとデメリットがございます。それぞれの特徴を理解した上で、良いところを取り、安定的に安全にかつ安く、環境に優しく電気を得る考え方が大切だと思います。再生可能エネルギーは開発・推進すべきだと考えます。この点についてはどのシナリオを選んでも、再生可能エネルギーを増やす方向であり、異論はございません。

私たちの地域でも小水力発電に取り組んでいます。小水力発電は発電量が少ないため、コスト高になっております。水利権や漁業権などコミュニティー全体の利害調整を図る必要がございます。また小水力以外の再生可能エネルギー全体で見た場合、共通した課題は、発電が不安定なことと発電コストが高いこと、これら一つ一つ固有な課題を乗り越えて、2030年、18年後に30%を確保するという事は高い目標でございますが、成し遂げなくてはならないし、環境立国する上で意義も大きいと考えています。

一方、原子力については脱原発の考え方は、長期的には賛成いたします。新規建設は控えることが良いと思います。しかし、2010年時点で26%の電力であった原発のポテンシャルは、ベースにあたる安定電源として確保しておくことが得策とも考えます。この点31年前のスリーマイル事故を経験したアメリカから学ぶ点も多いと思います。すなわち、国内54基の原発を一律に扱うのではなく、安全性の高い原発は、安全技術と安全規制で事故リスクを制御する、そのようなアプローチが必要だと思います。

原発は大量の燃料棒がプールされており、止めること、使用しないことと使用しないというアプローチ、イコール安全性の確保とはなりません。原発一基ごとの安全マネジメント

システムの向上、安全性の低い原発を廃炉にする技術の向上が必要だと思います。今最も優先すべきは、除染技術の向上であり、今言ったような廃炉技術の向上だと思っています。技術の成長は一朝一夕とはいきませんので、失敗を繰り返した上で、その上で挑戦した先にあると考えます。まずは、除染や廃炉の技術確立を目指し、しかる後に脱原発の目標期限を決めてはどうでしょうか。アメリカは 31 年かけても廃炉技術が確立できていません。その目標期限が 18 年では少し短いと思っております。

もう一つの理由は、脱化石燃料でございます。不安定な再生エネルギーを推進する一方で、原発による安定電源を確保する図式が良いと申し上げたのは、この理由にもつながります。化石燃料による発電は、扱いが易しく安定的であります。しかし、わが国は CO₂ を年間 10 億トン以上排出しており、これは世界で 5 位にあたります。2011 年は世界で 316 億トンの排出量を記録し、これは過去最高となっているそうです。

山本良一さんの本で『1 秒の世界』というのがございまして、調べたところ、2001 年時点の CO₂ 排出量でも 1 秒に体育館 32 棟分の CO₂ が排出され、グリーンランドの氷河が 1 秒間に 12 立方メートル分溶けて、そして体育館 40 棟分の酸素が減少し、中国では畳 48 枚分の土地が砂漠化し、テニスコート 20 面分の天然林が消失しているということでございます。熱帯雨林の破壊が主な原因となって、7 分に 1 種の生物が絶滅しているということです。温室効果ガスの排出による地球温暖化が人為的起源であり、環境破壊、異常気象の原因になっていることが、政府間パネルによる 3 次報告、4 次報告でも公式に世界的に認められてきております。オイルは生態系にダメージを与え、地球を壊しているのです。

また、わが国は、私も当然生まれる前ですが、太平洋戦争開戦において、アメリカから石油の全面禁輸を最後の圧力として受けました。その後、2 度のオイルショックも経験しました。そして、現在、震災後は原発停止に伴う火力回帰で、すっかり貿易赤字は定着してしまっております。わが国が 70 年以上前から原油産出国の情勢に振られ、国民負担を強い、オイルを買っているのです。世界ではいまだオイルを巡る戦争がやみません。われわれの自動車産業では、いまハイブリッドカーや EV、さらには燃料電池車の開発によって脱化石燃料を進め、世界をリードしています。一方で、発電分野では火力回帰によって電力を賄っていると、このような図式は環境立国として、日本の立場は一貫性がないのではないかという感じがいたします。

私が 15%シナリオを指示するのは、脱原発と並行して脱化石燃料を推進せねばならないと考えるためでございます。以上が私の 15%シナリオを指示する 2 つの理由でございます。若干時間が延びましてすみません、ありがとうございました。

◎司会者

6 番の方どうもありがとうございました。

(参加者からの声)

◎司会者

大変恐れ入りますが、ご静粛にお願いできますでしょうか。次に進めさせていただきます。次は、7 番の方、よろしくお願いいたします。お名前、お住まい、ご職業などを差し支えない程度で結構でございますので、お話をお願いいたします。7 番の方ですが、ゼロシナリオについての意見表明と伺っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◎意見表明者 7

札幌の F と申します。よろしくお願いいたします。福島原発事故から 1 年と 4 カ月、今数百万人の人たちが放射線管理区域の中で生活をして、子どもを育てています。放射線管理区域、そこは本当は法律が私たちの立ち入りを禁じるはずの場所です。福島から札幌に避難をしている女子中学生は、大飯原発の再稼働にあたってこう尋ねました。「私たちがこんなふうに避難をしているのに、大人はどうして原発を動かすの」。大飯原発の周辺自治体は、防災計画のために要請した SPEEDI の情報の出し渋りに遭いました。原発の周辺自治体は防災計画すら立てさせてもらえません。事故後 10 日以上公表せずに、取り返しのつかない被爆をさせることになった SPEEDI。外国には知らせても市民には知らせない、それは今も変わっていません。

すっかり全国の使用済み核燃料の置き場所になってしまった青森県六ヶ所村。青森県知事は、原子力安全委員会で「私たちはごみ捨て場ではない」と怒鳴りました。その使用済み核燃料は、10 万年以上も隔離しなければなりません。10 万年、つまり 3000 世代先です。一体私たちの周りで何が起きているのでしょうか。住民を見捨て、子どもを見捨て、自治体も見捨てる。これから 3000 世代も見捨てる。昨日報道された線量計の偽装で、従業員を見捨てていたことも私たちは知ったばかりです。同胞を見捨てる社会、これが原発を選んできた結果。それに気付いた多くの人たちが、今本気で原発ゼロを目指しています。

しかし、こんな甚大な被害を出さずに変わることはできなかったのか、そう思ったとき、私は向き合いたくない自分と向き合わざるを得ませんでした。なぜなら、結局私も原発を許してきてしまった一人だからです。反原発運動をしている人に問題を預けきって、傍観者を決め込んできた私自身が、こんな事態を招いていたのではないのか、同胞を見捨ててきたのではないのか。鬼の首でも取ったように政権批判をしているけど、こんな事態を許した大人の一人として、どう責任を取ればいいのか。傍観者ではなく当事者として脱原発を果たすこと、それが責任の第一歩です。そして、脱原発とは原発の立地自治体をも見捨てないこと、そういうことなのだと思います。

今回の選択肢で脱原発を選べるのは、ゼロシナリオだけです。先ほどのゼロシナリオも 30 年以降は分からないという話がありましたので、ちょっとそこは考慮していただきたいと

と思いますが、15%シナリオは実は脱原発のシナリオではないからです。15%シナリオでは少なくとも島根の3号機と青森の大間原発2基を新設することが前提になっています。新設をしないというシナリオではありません。また2030年以降のことは後で決めることになっているので、ずっと15%のままの可能性がります。それに高速増殖炉や再処理工場をも動かすことになっています。

脱原発の中にも意見の差はあります、即時廃止から40年で自然廃炉のソフトランディングまで。でも、3つのシナリオの中で、脱原発のシナリオはゼロシナリオしかありません。今は意見の差はともかく、ゼロシナリオを選びませんか。そして、脱原発と決まった後で正しい情報を共有して、いつまでにどうやって実現をするか考えませんか。

原発の選択が合理的でない理由に少し触れておきます。原発事故の前は安全神話で安全対策をなおざりにしてきました。今後は大きなコストが必要になります。ゼロシナリオと原発シナリオの発電コストの差は、わずかに1円。実際には、原発シナリオのほうがはるかに不経済なのです。おまけに、火力発電所にも水力発電にも計上されている損害保険のコストが、原発には計上されていません。これも合わせれば、経済性の点では考えるまでもありません。原発などを選択したら、私たちの生活が成り立たなくなります。ウランはとても貧弱な資源で、石炭の数十分の1、石油の数分の1しかありません。すぐに枯渇してしまいます。ウラン燃料は、結局ものすごく高つくのです。さらに、ウラン燃料を作る過程で大量のCO₂を発生させる原発。猛烈な勢いで海を温め続ける原発の一体どこがクリーンエネルギーなんでしょうか。

加えて、CO₂なら植物が吸収してくれますが、放射性物質は誰も吸収してくれません。事故がなくても運転していれば原発はいつも放射能を吐き出し続けています。例えば、2007年度の1年間に泊原発だけでヨウ素131は12万ベクレル、トリチウムは27兆ベクレル外部に放出しているんです。

最後に、何としても子どもを被爆から守りましょう。子どもには何の責任もないのです。放射線の感受性が飛び抜けて高いのは子どもなのに、子どもには何の決定権もありません。これ以上子どもの心と体を踏みにじることなく、これからどうやって責任を取るのかということが、私たち一人一人にかかっています。以上です。

◎司会者

7番の方、どうもありがとうございました。次は、8番の方です。お手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業などをお願いいたします。8番の方ですが、ゼロシナリオについての意見表明と伺っております。それでは、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 8

札幌に在住しておりますGと申します。66歳です。2年前に定年退職するまで、北海

道大学で建築史と美術史を教えておりました。福島第一原発事故が起きました。この日を境に、一市民として私が学んだことは、原発は単なる電力の問題ではないということです。原発は人間の価値観を問い、ライフサイクルをライフスタイルを問い、正義のある社会とは何かを問い、基本的人権と倫理を問い、人間の地球へのかかわり方を問う問題です。そして、2030年の日本の姿を展望するためのエネルギー政策にあっては、原発をゼロにするという結論に至りました。その理由を、福島から学んだ動かしがたい事実の確認から始めます。

まず、日本列島の周辺には4つのプレートがあり、巨大地震を引き起こします。地球は現在地震活動期にあり、ここ数年だけでも津波を伴うマグニチュード9の超巨大地震が、スマトラ沖、チリ中部、東日本大地震で発生しています。日本の地形さえも変えてしまった東日本大地震の余震と誘発地震は今も続いています。また、直下型地震を起こす無数の活断層が日本列島を縦横に走り、原発の周辺と直下にある可能性が高いと指摘されています。現在の科学では地震を正確に予測することはできません。自然の威力を軽視した人間の傲慢さが福島の事故につながりました。世界で指折りの地震国日本にとって、原発は最も危険で、最も不適切な発電方法です。現在日本にある原子力発電所は、最も新しい泊3号機を含め、地震活動以前の甘い耐震基準で設計されています。

次に、原発事故の恐ろしさは、ほかの事故と違いその不可逆性にあります。放射能物質は今日も放出されています。どんなに除染しようとも汚染された大地や河川を元通りに復活する、回復することはほとんど不可能です。電力の一部を賄う原発のために、生存の命綱である安全な水と土壌と空気を引き替えにするほど愚かなことはありません。故郷も健康も生きがいもお金では戻りません。原発事故は農業、水産業そして観光業などに壊滅的な打撃を与えました。原発事故が人間の手に負えないことも証明されました。国内にとどまらず、太平洋を汚染し続けています。海外の海洋研究所がそのシミュレーションを発表しています。もし日本が先進国であるというならば、その責任を自覚し、収束方法と廃炉技術において世界のモデルとなるべきです。

また、原発には安全確認があり得ないことも学びました。経産省、原子力安全・保安院と安全委員会が役割を果たしてこなかったことも証明されました。故障しない機械や設備はありません。仮に、完璧な原子炉が机上で設計されたとしても、その複雑な製作工程と施工、そして運転と制御と点検をするのは人間です。人間は間違いをするものです。完璧な安全基準審査もありません。ドイツ今後10年間で原発をゼロにするというエネルギー政策の転換を宣言したのは、技術的にリスク評価をすることの限界を認めたからです。ドイツ倫理委員会は、国内の原子力からのリスクを将来的に取り除くために、脱原発は必要であり、原発ゼロはリスクの少ない代替発電手段があるから可能であると首相に提言し国策となりました。

日本では原発をやめると日本経済が停滞するとか、空洞化がするとかいう意見がまだ

あります。全く客観的根拠のない意見です。冷静に考えてみましょう。経済に電力が必要なことは自明です。原発をゼロにしたからといって、電力がなくなるわけではありません。地震国日本にとって最悪の選択肢である原発という電力方法から、日本の国土に最も適した再生可能エネルギーへの発電方法を転換する具体策を明確に打ち出し、国民が未来への展望に向かって努力すればよいのです。

発電方法がいろいろあることは誰でも知っています。日本の国土を再生可能エネルギーの視点から見れば、いかに自然の資源に恵まれた国であるか明らかです。長い海岸線と列島を走る火山帯、そして豊かな森林、日本ほど再生可能エネルギーに適した国は世界でも少ないでしょう。電力発電としては、陸上風力発電、海上風力発電、波のリズムを利用した波力発電、海流、太陽光、バイオガス、熱利用としては地熱、太陽熱、木材バイオなど様々です。火力発電から出るエネルギーを利用するコジェネも実用化しています。これらを組み合わせれば、季節や天候、昼夜にあまり左右されずエネルギーを供給できます。これらの地域は、地域の資源ですから世界情勢に左右されないで供給が安定し、さらに資金が流出することなく地域内で循環し、大きな雇用を創出するというメリットもあります。分散型そして市民参加型の発電が、いかにその地域の経済の活性化に貢献したかという事例は、国の内外に既にあります。電力の消費削減と経済発展をいかに両立させるか、これこそ 21 世紀型の在り方です。それはもはや夢物語ではなく、達成可能であることがドイツの事例からわかります。

客観的に見れば、原発は効率が悪く、建設、廃炉、廃炉後の管理に膨大な費用がかかります。事故が人間の手で制御不可能であり、10 万年の先まで有毒放射能を排出し続けます。原発を継続するメリットは何もありません。原発を続ける限り、健全な経済成長も望めないでしょう。そして、それ以上に原発を絶対許してならないのは、基本的人権を脅かすからです。原発の点検と事故の収束は、作業員の被爆という犠牲の上に成り立っています。内部被爆を受けながら働く作業員の人権は、全く無視されています。

また、原発事故は子どもから当たり前の日々を過ごすという基本的人権を奪ってしまいました。子どもたちは、転校や屋内遊技や家族との別れを強要されています。将来の健康を心配する人が、一体日本に何万人いるのでしょうか。人類の今の知識では、放射能物質を無毒化することはできません。私たちは廃棄物の完全な処理方法さえ知らないのです。原発はウラン鉱石の採掘から核処理に至るまで、その全行程で放射性物質を排出し続けます。この毒物を途方もない未来の世代に押しつけることは、倫理的に許されません。社会の公益と活力に資するべきエネルギーが、人々の普通の生活を送るといった基本的人権を奪ってよいのでしょうか。本末転倒です。第 2 次世界大戦の末期、広島に原爆が投下されました。それでも日本は戦争を断念しませんでした。そして数日後、長崎に第 2 の原爆が落ち。

◎司会者

大変恐れ入りますが、7 分を経過しております。そろそろご意見をおまとめお願いいたします。

◎意見表明者 8

あと 1 行です。やっと日本は終戦となりました。原発事故において、この二度目はあってはならないのです。現在標準となっている原子炉で使う核燃料は、広島のと比ではありません。以上です。

◎司会者

8 番の方、どうもありがとうございました。次は 9 番の方でいらっしゃいます。お手元のマイクをご利用いただきまして、できましたらお名前、お住まい、ご職業などお願いいたします。9 番の方ですが、20～25 シナリオについての意見表明と伺っております。それでは、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 9

H と申します。東区に在住しております。今再生エネルギー等にちょっとかかわるような仕事をしております。何から始めましょうかね、1972 年、札幌オリンピックがあった年ですね。この年、だから 50 歳以上の方は記憶にあるのかなと。翌年の、昭和のほうがいいな、昭和 48 年、確か 10 月か、第 4 次中東戦争というのが起きました。その時に油がなくなった、これが第 1 次石油ショックです。

戦争のときのことはわかりませんので、このときの感想を言うと、トイレトペーパーがなくなり、洗剤がなくなり、実はその時は油もなくなったんですね。どこに隠したかわかりませんが、あったはずなんです。トイレトペーパーの始まりというのはばかばかしい話で、あの時千里ニュータウンのスーパーで、トイレトペーパーの安売りをするよと言ったら 200 人の列ができたんです。これはトイレトペーパーがなくなるんだとって、全国でトイレトペーパー騒ぎが起きたんです。日本人って流されやすいですよ、残念なことに。こういうのが原因。だから、その時に 2 ドル 50 セントぐらいだったんでしょうかね、それが 5 ドル以上になって 3 倍 4 倍に油が跳ね上がったんです。私は建設業でしたから、わずか 200 リッターの軽油を買いに美唄まで走って、100 リッター使って帰ってきました。それでも、仕事をするためには必要だった。資材もみんななくなりました。そういうような状況が、これから起きないと言えるんでしょうかね。

埋蔵量は私が小学校の時は、たぶん 30 年って習いましたけども、今 2011 年の最終的な推定では 60 年以上埋蔵量はあるよと。じゃあ、石油を 60 年間使いましょと、天然ガスを 60 年間使いましょ。ウランも 60 年間、これは使ったら駄目だという人が多いんでそれは別として、そういうような化石燃料を使う。じゃあ、この化石燃料はほんとに手に入るんでしょうか。日本はわずか 4%の自給率しかありません。

今の生活を皆さんがされるとしたら、例えば 400 万キロ、皆さんの住宅で使う電気というのは、例えば 4 人ぐらいの、4 人家族の平均的なうちだと大体 10 から 11kwh ぐらいです。オール電化住宅だと、大体 20 超えるぐらい。この電気を半分にして皆さん暮らしてみませんか。できますか？ できるという方もいらっしゃるから、できるんでしょう。じゃあ、コンビニの電気を消し、日本の産業を全部外国にやり、就職口をなくして、皆さんがそれで生活できるのかという話と同じなんだ。違うんです。

◎司会者

皆さん、大変恐れ入りますが、意見表明中です。ご静粛にお願いいたします。

◎意見表明者 9

エネルギーは手に入らないと農業もできません。もちろん建設業なんかできませんし、それからほかの産業もできないんです。電気の安定供給はやっぱり必要なんです。だから、今回は 20~25 という選択肢しかなかったの、ここに応募しましたけれども、皆さんはじゃあそうなったときの電気代ってどうなると思います？ たぶん電気代を書くととんでもないことになるなと思って資源エネルギー庁の方は、金額を書かなかったんだと思う。1 キロワットが今 24 円ぐらいですね。これが 100 円だよとか 150 円だよって話になったときに、「いや、それでもいいよ」と言える方がどれだけいるかということなんです。で、この原子力発電所なんですけれども、どうして皆さん日本に造ろうとするんですか。ベトナムで欲しいって言うてるところに、ただで造ってあげたらいかがですか。ねえ。

◎司会者

ご静粛にお願いいたします。

◎意見表明者 9

そうして、それから半分だけ日本に直流で電気を送ってもらえばいいんですよ。そうすれば、直流送電は 5%も減りませんので、日本も十分やっていけるんです。それから、向こうは水も治水ができていけませんので、ダムを造ってあげて、水力発電の電気をもらえばいいんですよ。そういう発想でやっていかないと、ただ反対だ、ただ賛成だ、じゃあどこまで知っててどこまで知らないかっていうのは全くわからない。いやいや。ありがとうございます。当然東電もそれから保安院も含めて、かなりのことを隠していたのは、これは事実なんです。だけど、皆さんみんなオープンにしてもらったらどうですか。皆さんは、「皆さんは」と言ったら駄目なんです。反対される方の中には、あれは人災だとおっしゃる。私は天災だと思うんですが、人災なら解決できるはずなんです。ここに金を使って将来のエネルギーを確保するというのは大事なことです。これは今の選択肢では原発しかないからこういうようなことがあります。それ以外の選択肢もこれから出てくるかもしれませ

ん。その時転換すればいいんです。とりあえず、今の状態を維持していく以外に方法がないんですね。

そういう観点でエネルギーを考えていかないといけないと思うわけです。だから、単に原発がいいんだ悪いんだじゃないんです。もし百パーセント安全だったら、皆さんもオーケーでしょう。安全じゃないんです。で、皆さんはまたこれは話が違うと言うかもしれませんが。

◎司会者

恐れ入ります、意見表明中となりますので、お聞きください。

◎意見表明者 9

車に乗って人をはねると思ったことはないですか、一度も。もし可能性があるとしたら、車に乗るのをやめるでしょう。それは個人の問題だと皆さんはおっしゃるけれども、例えば52年に石狩川が氾濫したことがあります。あの時の堤防の高さって、実は100年に一度の確率ということで、100年確率で堤防の高さを決めてた。で、被害が起きたら、堤防の高さを上げたんです。

だから、原発においても、オープンにできるところをオープンにして、そうしてより安全なものをつくって、皆さんが納得いくかたちで供給していただきたい。そのことが日本を今より、今より良くならなくてもいいですけどね、今から下向きにならない、上向きになれる唯一の方法だと思いますよ。そういうことを考えて、原子力爆弾の話がされた方もおりますけれども、エネルギーとは全く関係ありませんから。そんな発想がそもそもおかしいんでね、エネルギー問題はエネルギー問題として捉えてもらいたいということでもあります。以上です。

◎司会者

9番の方、どうもありがとうございました。続きまして、10番の方です。お手元のマイクをご利用ください。10番の方ですが、15シナリオについての意見表明と伺っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◎意見表明者 10

皆さん、こんにちは。私は1、29歳、登別市から来ました。登別といえば温泉地ですが、そこから来ました。会社を私経営しております、小さい会社です。いわゆる零細企業です。衣料品販売、IT、あとはちょっと個人的にはブログとかフェイスブック、ツイッターとか使っているいろいろと時事のことについて広告張って小遣い稼ぎはしていますけれども、そこらへんでもいろいろ言ってることなんですけど、実はこの間、北海道電力の人にあまりにもこの間の節電だとか、原子力発電のやり方について、あまりにもだらしがなさ過ぎるので、本店のほうに実は私行ったんです。そのときに、枝野さん、メールを読んでいただいたかと

思うんですけども、私は警告したんですよ。案の定、計画停電めっちゃめっちゃだ、こういうふうなことになったじゃないですか。それを私は警告したかったんですよ。枝野さんにはそれを警告したということで、北海道電力を監視しろよという意味で、鳩山さんと CC で送ったんですよ。

というのも、今の国会議員ちょっとだらしがなさ過ぎるということがあるわけなので、地元国会議員とそこらへんで送らないとということではあるんですけども、冗談は半分にして、例えば枝野さんにも実はメールを送ったんですけども、私は苫小牧でも商売をやっているんですが、店の中 LED ギラギラつけてる、LED を私の店ではつけているんですけども、いまだに白熱電光を煌々とつけているようなお店がいっぱいあって、これ節電を乗り切れるのかなというところが実はあります。

今、現状で行くと、泊発電所自体動くか動かないかでいうと、まあ動かないでしょうということですけども、私自身はこんな危ないものをなくせばいいというところは正直なところですよ。こんなものはなくてもいいじゃないかという。私は実際東京電力の株を持っていますけども、東京電力を JAL みたくつぶしたっていいじゃないかと思ってます。枝野さんもそこらへんも考えてもらいたいと思うんですけども、今の野田さんも無策だと思いますが、あと悪いのはマスコミです。

ここにマスコミの方がいますけれども、東京電力や北海道電力、そういったことをちゃんと報道していますかね。してないじゃないですか。結果的に今も北電のテレビコマーシャルを流していますけども、北電の都合の悪いことを流してないですよ。私実をいうと、北電に節電ダイヤルのほうに電話をがんがんにかけて、問題点を指摘したんですよ。例えば、ベース電力を今まで表示していなかったのを表示させましたし、電話をかけてある意味法律すれすれなところがあるかもしれませんけれども、私は北海道民としてそこらへんは、北海道電力は今独占企業ですから、そこらへんでこういうことをやっていいのかということを実は考えて、北海道電力に是正させるという意味でそういう行動を起こしました。

私も実は広島へ行きましたけれども、確かに原爆というものもすごいなというところで感じましたし、そういったところもあります。ですが、冷静に考えてみてください。日本は確かに、隣町の室蘭では石油のコンビナートがあったり、苫小牧もコンビナートがありますけども、それがなくなったり、外国からガスから来なかったりしたらどうするんですかということなんですよ。登別だったら地熱発電をすればいいとか、そういうものはありますけれども、もし万が一なくなったときの緊急避難、万が一を想定して原発は基本的に停止させておくだけでも、万が一どうしようもなくて、ほんとに困って困ってどうしようもないときに、原子力を最後の切り札とはするんだけど、原発は基本的に止めておくと。万が一を想定してということをやるとするのは一つの方法だと思うんですよ。

だけど、それは国の責任において、今の郵便局、国 100% の会社です。ああいう会社で責任を持ってやるか、国が日本国有鉄道、国鉄を戦時中買収したときみたくやらない

限り、国が責任を持って管理監督しないと、JAL みたたく復活、企業体質的にもう無理だろうと私は思っています。ほんとに頭のいい京セラの会長がそういうふうにするぐらいの感じじゃないと、もう無理かなと思っています。

それらを踏まえて、今の日本で問題なのは、電力会社が独占していること、発送電分離および配電を分離しないという今の状態があるからこそ駄目なんです。戦時中って室蘭電灯だとか札幌送電という会社があったんですよ。それを戦時統制で日本発送電株式会社と北海道配電にそういう体制にしたわけですけども、そういう体制に戻すというところはちょっと方向性は違うかもしれないけれども、NTT やソフトバンクが今こういうふうな流れになってきているということはすごい大きいことだと思います。今問題となっているのは、バブル期に各町で一品一村みたいなかたちでやっていたんですけども、一品町でできる独自性の発電ってあると思うんですよ。そういうことを踏まえてやっていかないと駄目なのかなと思っています。

例えば、登別であれば地熱、室蘭であれば今風力発電がありますけど風力発電、苫小牧や伊達だったら天気がいいから太陽光発電とかそういったようなことで、一品そういう町おこしのところでやっていくということは、産業的にもいいことだと思います。それらを踏まえて日本の活力を出すという意味で、ほんとに原発はつぶすための技術というのを研究していかないと駄目です。つぶすということで、だけどそれは機構なのか財団法人なのか株式会社なのかわかりませんが、室蘭の PCB の処理会社はあるんですが、そういったような会社、もう国百パーセントの会社が原発を動かして、国が百パーセント無限責任を負うというぐらいのかたちであれば、ほんとにスーパー堤防を造って、地震や耐震、免震でもものすごいものであるのであればいいかと思えますけども、ペイするかどうかといったところでいくと、動かさないほうが実は経済的だと私は思っています。

けども、万が一を想定して残すということは思っていますので、日本の技術というところで今後どうなるかというのは、日本の技術が外国、特に韓国や中国にこれからは抜かされてしまうということを危惧しています。日本の経済発展や日本が技術立国として成長しなきゃいけないと思っています。

私は衣料品、学生服も売ってますけども、その子たちに負の遺産は残すべきではないと、日本をもっといい国にしたいというそういう思いを持って今日来たわけですので、そういったところで私はほんとに発言できる場があって嬉しかったと思っています。枝野大臣もそういったところで、今こういった議論をほんと踏みにじらないで、金曜日の鳩山さんは私の地元です、鳩山さんはよくやったなということもありますけども、いい意味で。そういったところを受け止めて、鳩山さんに私は票を入れるかどうかという人ですけども、私が、鳩山由紀夫って書けば投票するかもしれないということですけども、そこらへんを踏まえて、野田総理大臣とそこらへんを相談していただきたいなと思います。以上です。

◎司会者

10 番の方、どうもありがとうございました。次の 11 番の方は、今日ご欠席ということで、続きまして 12 番の方となります。お手元のマイクをご利用ください。12 番の方ですが、20～25 シナリオについての意見表明と伺っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◎意見表明者 12

ここに来てからいきなり名前を呼ばれまして、ここへ座れと言われて、最初始まった当初ずっとメモ取って、自分が何を書いたかもよくわからないままなんです、これコピペの途中でしたので中途半端な文章になっております。基本的に私は、反対だとは思いますが、黙って聞いていただけますか。すぐ終わりますから。

基本的にまずマクロから私の意見を表明します。今、日本では腰だめですけども、確か 5 兆円ほど化石燃料を、ガスも含めまして多く輸入しています、スポット価格で。それはしょうがないじゃないといえましょうがないんですが、これただ今ドルがあるからまだいようなものの、とりあえず燃やすのに一生懸命買ってます。

自己紹介、すみません、忘れていました。札幌市の J と申します。年齢は 53 歳です。職業は介護無職です。これは後から申しますミクロのほうにややちょっと話が及びます。申し訳ありませんでした。で、その燃料費の高騰、それでやっぱり国際関係はもし、私がほんとに申し上げたいのは、感情としてはよくわかるんです。原発要らない、放射能怖い、感情としてはよくわかります。たぶん私もそう言えたら叫びたい気持ちはなくはないです。

ですが、やっぱり最初申し上げたマクロのほうで言いますと、国際関係、先ほどの方もおっしゃった方がおられますけれど、国際関係はどうするんだ。それと、化石燃料もしくはガス、これ日本でももしも例えば日本海とか太平洋の、何ていいましたっけ、ガスを使って実用化できて、安定供給ができるのであれば、原発は今反対の皆様がおっしゃるとおり要らないと思います。ですが、今例えばソーラー、例えば風力、例えば波力、いろんな案はありますけれども、やはり何といても安定供給できるか、しょうねとは言ってますが、できるかって試す過渡期ではあると思います。もう一つ、これはマクロに関して、なるべくその感情を排して、これがこうで、これがこうで、これがこうでこうだよねって自分の頭の中で考えてみようと思いました。

もう一つ、先ほど途中まで申し上げたミクロのほう、私は両親が 80 代で長命しておりますが、父親が認知症、母親がそれと一緒にいて鬱になってしまっていて、今親子 3 人私は一緒に住んでおりますけれど、今回北電さんのサイトへ行ったら、停電の地域に引っ掛かるようだ。それで、一応やっぱり認知症とはいえ、説明はするんですね。ところが、さっき取った新聞が、新聞が来ないっていうぐらいのものですから、もし万が一停電になっちゃったときに説明します。それはしますよ、しますけれど、納得するのと。納得するかと、しないでしょう、わからないし。

それともう一つ、うちはまだそこまでひどくはないですが、ご家庭で電気を使って療養さ

れている方、今本当に多いです。うちはたまたままあ違うからいいようなものの、本当に多いんです。非常用電源、ガソリンを使うのとか今はいろいろあるんですが、使ったとしてもあれは非常に燃費が悪く、かてて加えて一応バッテリーとはいうものの、そんなに時間持たないんですね。これは大病院の非常用の電気も似たようなものだと聞いております。私ね、お気持ちとして本当にわかるんですよ、原発は要らない、こんなのは嫌だ、危ないからやめよう、本当にわかるんです、涙が出るほどわかるんです。

ですが、やはり私は今の現実、それとうちにはそういう未来はありませんが、もっと未来がある若い方々、子ども、日本の経済というのはやっぱり、経済はやっぱり命を守ります。私はがんになって2回手術しましたけれど、結局電気で、電気の力なくばこうやって人様の前で話すこともできませんでした。ですので、何だろう、うちの父はもうお尻も拭けませんから、びろうな話ですが、電気がないとちょっともう大変なんですね、毎度。そういう方は多いと思います。

だから、本当に涙をのんでというところといやらしいですけど、現実として今はやむを得ず25%ぐらいまでは容認せざるを得ないと思っております。ぜひとも経済産業省のみならず、次世代発電の開発をするためにも安定電力は必要ですし、それから例えば次の実現しそうな次世代発電の研究をするにも、やはり安定した電力は必要だと思えます。次世代の安定した今と同じような、ずっと100ボルトの電気がちゃんとどこかのコンセントに挿しても来るという状態を保ってくださるのであれば、原発じゃなくてもいいんですが、今はそうではないという理解です。言葉足らずですが、ありがとうございました。以上です。

(参加者からの声)

◎司会者

事前には選んでおります。

(参加者からの声)

◎事務局

事前にご案内をしておりました当日決定していた方が欠席になったものですから、繰り上げ候補の方からご案内させていただいております。ご了承ください。

(参加者からの声)

◎事務局

繰り上げ候補の方も含めて、15シナリオを選択いただいた方は本日も欠席だったためでございます。

(参加者からの声)

◎事務局

抽選でございます。まずは、本日の議事進行を進めさせていただきます。ご了承ください。

◎司会者

こちらのほうを進めさせていただきます。大変恐れ入りますが、進めさせていただきます。ただいま予定していた方々からの意見表明全て終了とさせていただきます。

<他意見表明に対する感想、意見>

◎司会者

意見表明の 11 名の皆様の中で、これまでの発言内容についてご意見、ご感想がありましたら、お一人様 2 分以内でご表明をいただきたいと思っております。大変恐れ入ります。こちらは無作為抽選となっておりますので、ご了承ください。それでは、意見表明された皆様の中でご発言されたい方、挙手をお願いできますでしょうか。2 番、3 番、4 番……。それでは、2 番の方からお願いいたします。

◎意見表明者 2

枝野さん、独立型太陽光発電事業を行うノンプロフィットオーガニゼーション(Non Profit Organization)、NPO を仮に立ち上げたとして、政府から補助金を頂くにはどこに申請すればいいですか。はい、後でよろしく申し上げます。以上です。ありがとうございました。

◎司会者

それでは、3 番の方、よろしくようお願いいたします。

◎意見表明者 3

B でございますが、先ほど申し上げる時間がなかったので省略した点を、補足させていただきます。タベ NHK のスペシャルでいろいろと放映されておりましたが、当事者が動転してしまっただけで、まをやっていきますね。とにかく人間というのはあんなもんです。プラントをちゃんと動かそうというのは、そもそも無理なんでして、人間がつくったものは完璧ではあり得ないということがよくわかったと思います。原発というのは、実はいったん事故を起こしたら、放射能のために接近することができない、これは福島が今 1 年何カ月たってもよくわからない。きのうあそこでパイプが損傷したかどうかわからないというような言い方をし

ておりますが、ヘアクラックなんていうのは、時間的な制約の下で見て歩いたって見えな
いんですよ。そういうことがあると思います。

それから、今のご発言の中にもございましたが、今世間は計画停電の脅しにおびえて
おります。あれ実はある意味ではトリッキーなんですね。あそこでは一昨年の夏が一番暑
かったから、あの時が 505 万キロか、506 万キロか。それをベースに 7%節電が必要な
んだと、こう言うておるんですが、一昨年はどういう年であったかという、暑かったかもし
れないけれども、節電なんてことは全然考えておらず使い放題、野放図に電気を使って
おった時なんですね。そんなのをベースに節電する枠を決めるなんていうのは、そもそも
おかしいのでありまして、このごろ、先日私は声欄に投書したんですが没になったんです
けど、道新が昨日ですか、計画停電は恐らくないであろうという情報を流しております。

はい、はい、もうお時間だというんで、失礼いたします。とにかく子どもたちの明るい未
来のために、それから女性が安心して子どもを生めるように、生きとし生けるもの全ての
ために原発ゼロの社会をつくりましょう。ありがとうございます。

◎司会者

次に、4 番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 4

今 20~25%シナリオの人の意見とかいろいろ聞いていて、やっぱり痛感したというか、
改めて思ったんですが、経済効率を重視する人は周囲の社会に外部的な外部経済やリ
スクを感受させて、そういう無責任な価値観を持っているということがわかりました。そう
いった無責任な価値観を持った上で日本の経済発展を夢見るわけですが、せめてやむ
を得ずというぐらいならば、これが恥知らずな価値観であることぐらいは自覚すべきだと思
います。

もう一つなんですが、私はさっきも言いましたが、特に事故後の被災者対応における
国と東電による対応、それが今までの社会が守ってきた最低限の社会的倫理を壊すよ
うなものであった、不合理なものであったということに怒りを感じています。これに対処す
べき立場にいるのは、枝野大臣だと思います。それについてはちゃんとお願ひしたいと思
います。それがもしもできないようならば、やはり反社会的な発電方法は選択肢に含むこ
とはできないと思います。以上です。

◎司会者

次 6 番の方、よろしくお願ひいたします。

◎意見表明者 6

すみません、2 つだけ言わせていただきたいと思います。まず 1 つは、経済についてで

す。今経済環境は大変にきびしい、六重苦とも言われましてきびしい状況でございます。例えば、1ドル 80 円を切るような状況を数字を見てきびしいと言う方はいらっしゃるのですが、しかしこれを産業の第一線で立って、どれだけ肌で感じているかというようなことを思います。それと同じく指定電力の問題も語られるべきだなと思っています。企業が全く不平等な条件で世界と戦わなければならない、グローバルな市場に打って出ていかなければならない。これは事業主がそうしたくて戦略的にやっていることとは思えません。もう日本でやっていたら負けちゃうから、やむを得ず出て行っているという現状ではないでしょうか。

そういう空洞化の問題、それを経済というのを将来の世代に、将来の人たちも命の問題と等しく経済の問題に向き合わなくてはなりませんので、その上でこの国は雇用が守られ、国民生活が安心してできた、あるいは治安が守られた、こういうことだと思いますので、それをまた皆さんそれぞれでも重く考えていただきたいということを感じました。

もう一つは、再生エネルギーは私も大いに賛成でございます。再生エネルギーは高いですが、これは何とか高くても開発して。それと、1 ついいことは、これは高くても国にお金が落ちると思います。ただ、化石はアラブに落ちますので、これはただ浪費するというかたちになります。非常にそういう意味で国民を疲弊させる要因にはなると思いますので一考いただきたいと思います。以上です。

◎司会者

続きまして、7 番の方、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 7

まず1 番の方に、「事故が起こったときの処理はかなり優秀なんだ」というお話があったんですけど、優秀じゃないから事故が起こるんですけど、優秀だと勘違いしていて、ミスがあるという前提になかなか立てないところが問題なんだと思っています。同じことで、9 番の方、「人災なら解決できるはず」、これ私もそう思うんですよ。人災なら解決できるはずなんだけど、大飯原発は安全対策なしに動かしてしまったんですね。関西電力の社長は、「安全対策なしに動かすのはどうなんですか」と言われて、「どうしますか？」って言われて、「起こしません」、「いやいや、安全対策なしで動いて事故があったらどうするんですか」、「いや、事故を起こしません」、何も変わってないですよ。この住民を見捨てる体質が問題なんだと思います。

それから、10 番の方、原発をやめていく技術開発が必要とおっしゃっていたんですけど、僕もそう思います。それをこれからクールな仕事だという感じにしていけたらいいなあと思います。

◎意見表明者 10

それは日本にとって産業になって。

◎意見表明者 7

行けばいいということですね。

◎意見表明者 10

むしろ日本にもものすごく……。

◎司会者

恐れ入りますが、後ほどお話しいただけますでしょうか。

◎意見表明者 10

すみません。

◎意見表明者 7

それから、最後に 12 番の方ですけども、安定供給のことをかなりおっしゃっていたんですが、なぜウランだけは安定供給されると信じているんですか。以上です。

◎司会者

それでは、8 番の方ですね、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 8

これは意見というよりもこの会の在り方について、1 カ月間の意見聴取という期間があまりにも短すぎる。それからまた、全国のもっといろいろな会場で開催するべきであると思います。それから、この在り方について、この在り方を決めたのは経産省なのか、博報堂なのか知りませんが、これはあまりにも一方的であり、国民フォーラムとはほど遠いものです。その点、早く改善してほしいと思います。それからもう一点、官僚といわれる人は、ほとんどの人が東大出の頭のいいはずの人ですが、なぜこの人たちが 20 世紀型の経済の構造に固執して、21 世紀型の経済構成に頭の転換ができないのか、ここも不思議でなりません。

コジェネと再生可能エネルギーと、電力の消費削減を一体化して進めれば、経済成長と電力の消費削減を同時に両立させることはできます。そして、そのあたりをきちんと研究してリーダーシップを取るのが国の役目であり、官僚といわれる人たちの役目だと思います。このあたりを枝野大臣はきちんと認識をして、官僚に振り回されることなく方針をつくってほしいと思います。

◎司会者

それでは、10 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 10

いろいろな方の意見、すごく勉強になりました。私自身も勉強不足のところがあったんですけども、実は私が住む登別、国道 36 号なんですけれども、冬私は車で通勤しているんですが、街路灯が真っ暗に一度なったことがあるんです。それで、そういったようなことが今年の冬、夏は北海道ですから何とかなるだろうとは思いますが、冬の節電ってどうなるのかなというところを、政府も何もそこは提示していませんよね。そっちのほうで私は恐ろしいと思うんですよ。

実は、今年の冬真っ暗になった街路灯ということで、マスコミの方にも CC をした上で、国土交通大臣や地元の鳩山由紀夫氏だとかにも、そこらへん指摘したんですが、室蘭や登別の人で指摘した人は、室蘭民報が唯一取り上げた以外、このマスコミ何も指摘してないんですけども、今のマスコミもそこらへん問題がありますが、冬のそういった節電だとかっていう方向性、政府の見解としてはどうなんでしょうか。

われわれ北海道としては、凍死してしまったら、オール電化の中で家庭はいっぱいあると思います。そういったところをどうするのかというところが、直近の冬はどうなるのかなというところが非常に興味があるので、政府の見解を教えてくださいと思います。ただちに問題があるのかという、これもあるんですけども、そこらへんをちょっと教えていただければと思います。

◎司会者

以上で皆様からの……、まだほかに今発言されました方以外の方、では 9 番の方ですね。はい、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 9

まず一言、お礼をさせていただきたいと思います。無知のレッテルを貼られまして、久しぶりに気持ちのいい思いをいたしました。ありがとうございました。

実は、石油資源でいきますと、これは枝野さんに聞いてもらいたいんですが、尖閣の所に中国が狙っているといわれる資源がある。石油なんです、1000 億バレル、ですからイランの埋蔵量と同じぐらい入っているといわれているんですね。だけど、実際に日本は調査をしていませんから、それと前政権もそのところは刺激しちやいけないと、全く手を出していないとこなんです。だけど、逆に東シナ海の油田では、日本の天然ガスまで吸い上げているわけです。日本の政府として、国を守るという生きがいを持って、それから資源を確保するという気持ちを持って、ぜひ調査に入って、そこから資源を採る。今は 3000 メートルでも海中から採れるような技術ができてきましたので、そういった方向をゼ

ひ目指していただきたいなと思って最後のお話にさせていただきます。終わります。

◎司会者

ほかの方はよろしいでしょうか。それでは、11名の皆様から意見表明をしていただきました。ありがとうございました。

<大臣挨拶>

◎司会者

それでは、最後に枝野経済産業大臣からご挨拶をさせていただきます。

◎枝野大臣

意見発表をしていただいた皆さん、そして会場にお集まりをいただいた皆さん、さらにはネット中継などを通じてお聞きをいただいた皆さん、ほんとうにご協力ありがとうございました。私にとっては意見聴取会の現場は2度目でございますが、前回もそうでありましたが、大変貴重な意見を聞かせていただいて、それぞれの意見にうなずきながら聞かせていただきました。

2点だけ、ここは明確にさせていただきたいと思う点を申し上げさせていただきたいと思いますが、1点目は決して結論ありきではやっておりません。ほんとに様々な皆さんの様々な意見、そして同じ結論の意見でもいろいろな立場、いろいろな理由があります。そうしたことを国民の皆さんもそれぞれ、できるだけ自分と違う意見についても聞いていただき、考えていただき、そうしたプロセスの中で、今回3つの選択肢をお示しをしていますが、なるほどこういう声こういう声があったら、こういう考え方もある、こういう結論もあり得るとか、そういったことまで含めて、まさにこれから決めていこうということでございまして、決して初めから結論ありきではないということは、これは明確にお話をさせていただきたいと思っております。

それからもう1点だけ、個々のことについてはいろいろと、政府としては違うんだけどなあということはあるんですが、日本政府として、少なくとも民主党政権として、核兵器を持つつもりは全くありません。これは自信を持って胸を張って申し上げます。核兵器を持つということは、民主党政権として全く考えておりませんし、万が一にもわが国が核武装をするだなんていうことを言う政府があれば、私は職を賭してそれは絶対に反対をいたします。こんなことは許されることだとは思いません。

その上で、この会のやり方について等のご指摘もいただきました。誰が決めたのかと言われますと、経済産業省というのは、これは正確に言いますと、内閣官房に置かれたエネルギー環境会議でこういったやり方をさせていただいております。率直に言って、様々なご意見があることは十分に、決めた時からいろいろなご意見があるだろうと、会の持ち方についても思っています。

あえて申し上げますと、ほんとに1億3000万国民の皆さんの意見を、できるだけたくさんということの意味では、パブリックコメントを通じて意見を寄せていただきたいと思います。ただ、それぞれ一方通行で意見を寄せていただくということだけでは、この問題についての国民的議論は足りないだろうというのが、この意見聴取会を開催をしている一番の理由です。

私どもそれぞれの皆さんが、自分とは違う意見も含めてお聞きをさせていただく中で、あるいは同じ場で違う意見が示される中で、より建設的な新しいアイデアが出てこないだろうかということなどを含めて、意見聴取会という場を設定をさせていただいております。そうしたことの中で、その運営についてはいろいろなご不満、ご批判はあろうかと思いますが、その目的、趣旨の観点から、もちろん今日もアンケート等様々お書きをいただければ、次回以降の参考にしたいと思っておりますが、やらせていただいているということをご理解をいただければと思っております。

今後も今日の運営についてのご意見等も承りながら、さらに建設的かつ国民のできるだけ多くの皆さんにご理解いただけるようなまとめをするのは、なかなか正直言って、今日も意見が大きく違っておられますから、難しいことは重々承知ですが、難しいからといって逃げるわけにもいかない課題であるというふうにも思っております。

ぜひ引き続き今日おいでをいただいている皆さんはもとより、ネットを通じてなどご覧いただいている方を含めて、できるだけこの国民的議論にパブリックコメントを含めてご関心を持ち、ご参加をいただきたいということをお願いを申し上げ、重ねて意見発表者の皆さん、そしてご来場の皆さんに感謝を申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

◎司会者

枝野大臣からの皆様へのご挨拶でございました。それでは以上をもちまして「エネルギー・環境の選択肢に関する意見聴取会」を終了とさせていただきます。お帰りの際にはご入場のときにお渡しいたしましたアンケートにご記入の上、出口にて係の者にお渡しいただきますように、ご協力をお願いいたします。

また、お忘れ物などございませんよう気を付けてお帰りください。また、ごみなどがあつた場合は、各自お持ち帰りいただきますようお願い申し上げます。本日は長時間にわたりましてお付き合いいただき誠にありがとうございました。